

デフアスリートを ささえる

競技別手話言語通訳ガイド

[水泳編]

Swimming



ごあいさつ

全日本ろうあ連盟
スポーツ委員会委員長
太田 陽介



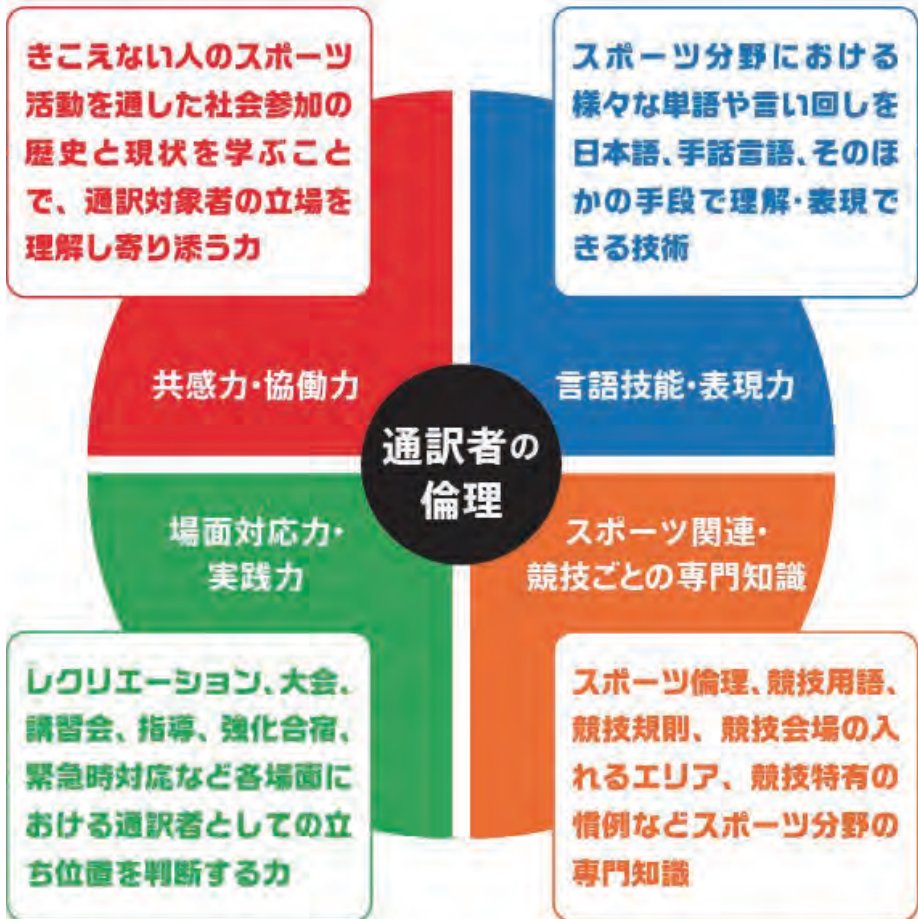
スポーツ庁は「する・みる・ささえる」といった多様なスポーツライフを通じて、スポーツ参画人口の拡大を目指しています。アスリートのプレーを「みる」、ボランティアの「ささえる」活動を通して、「する」スポーツへの興味が喚起され行動へとつながることが期待されており、きこえない人のスポーツ活動を通じた社会参加と共生社会の実現にも通じる取組になります。

きこえない人がアスリートのプレーをみるためには、スポーツ施設の情報アクセシビリティ向上、放送の字幕・手話言語付与などの整備が進められています。一方、きこえないアスリート(デフアスリート)がスポーツをするにあたっては、スポーツ関係者によるきこえないことや手話言語への理解促進とともに、デフアスリートのスポーツ活動をささえる手話言語通訳者の育成が重要になっています。

そこで、本委員会では令和2年度より、スポーツに精通した手話言語通訳者の育成を目的として、スポーツ庁の「障害者スポーツ推進プロジェクト事業」を受託しており、3年目となる令和4年度は、ドクター、トレーナー等、デフアスリートを取り巻く話に焦点を絞った医科学編と、専門種目としてバスケ競技、水泳競技、空手道競技を解説するパンフレットを製作しました。スポーツ活動の現場で通訳を行う方々の知識と技術の向上にこれらの手引が役立つことを願っています。

スポーツ分野で通訳するための準備

きこえない人のスポーツ活動を通じた社会参加を支える手話言語通訳者が、通訳者としての倫理観を備えた上で準備しておくべき知識と技術を、「共感力・協働力」「言語技能・表現力」「場面对応力、実践力」「スポーツ関連・競技ごとの専門知識」の4テーマに整理しました。



このガイドブックでは特に水泳競技に必要な知識を紹介します。

ろう者と水泳競技

「デフスイマーはスタートの音がきこえないだけで、泳ぎ方と試合のルール等は、きこえるスイマーと同じ」と思っている人は多いです。しかし、デフスイマーの中には次のハンディーを抱えていることがあります。

まず、耳に障害があるため平衡感覚が取りにくいのです。水中では浮力が働くため、平衡感覚が取りにくいことは大きなハンディとなります。また、普段から声を出す機会が少ないため、肺活量が低い等により、きこえるスイマーとデフスイマーのレベルの差が出てしまいます。

これらのハンディーを知っていただき、そして「スポーツに精通した手話言語通訳者」による情報保障、コミュニケーション保障が行われ、デフスイマーがきこえるスイマーと対等に競技に臨める環境が整うことを望みます。

水泳の概要と基本ルール

競技種目

自由形	25m*	50m	100m	200m	400m	800m	1500m
平泳ぎ	25m*	50m	100m	200m	-----	-----	-----
背泳ぎ	25m*	50m	100m	200m	-----	-----	-----
バタフライ	25m*	50m	100m	200m	-----	-----	-----
個人メドレー	-----	-----	100m*	200m	400m	-----	-----
フリーリレー	-----	-----	4×100m	4×200m	-----	-----	-----
メドレーリレー	-----	-----	4×100m	4×200m	-----	-----	-----

* 短水路のみ ※個人メドレー：バタフライ→背泳ぎ→平泳ぎ→自由形 ※フリーリレーとメドレーリレーは、男女混合リレーと同様

水泳の概要と基本ルール

泳法の基本とルール

・自由形

うつ伏せで両腕の掻きと両脚のキックをそれぞれ交互に繰り返す。

キックは、「バタ足」



・平泳ぎ

カエルのように両手を水につけたまま、胸から前方に伸ばすように左右同時に掻く動きと、両足で後方に蹴る動きを交互に繰り返す。



・背泳ぎ

体が常に仰向けになっている。

実際の泳ぎ方は、クロールの泳ぎ方を上下逆する。

キックは、自由形と同じ「バタ足」

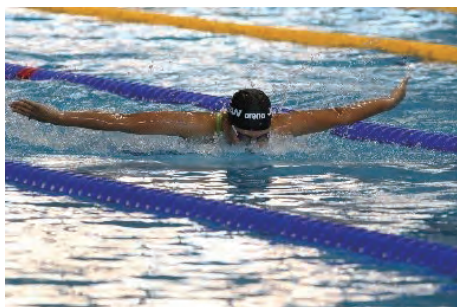


・バタフライ

イルカのように両腕を同時に前後に動かし、両脚は同時に上下に動かして泳ぐ。

腕・脚ともに、交互に動かしてはいけない。

キックは、「ドルフィン」



・個人メドレー

バタフライ・背泳ぎ・平泳ぎ・自由形の順番で泳ぐ種目。

水泳の用具



水着(練習用)



水着(試合用)



セーム



ゴーグル



キャップ



ビート板



プル



パドル



競泳用フィン



競泳用シュノーケル



スタート台



バックストロークレッジ

水泳の情報保障

スタート合図

きこえない選手は、スタートの合図音を聞くことができません。

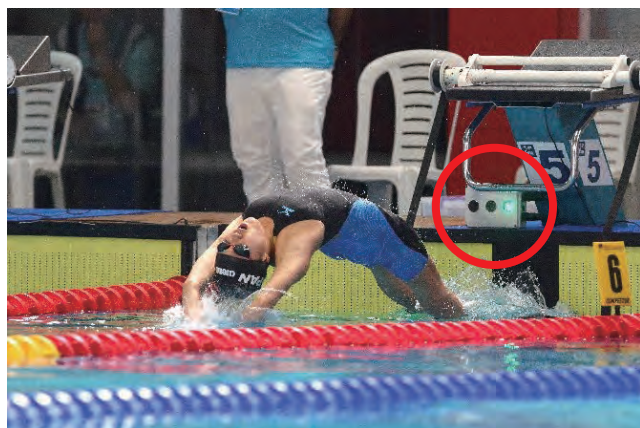
そのかわり、スターターのピストルでは音と共にも発せられる光を合図に、スタートします。

さらに、視覚でスタートのタイミングが分かるように、スターターの身振りを工夫したり、シグナル(光合図)等を使用しています。

デフリンピック等の国際大会では、スタート台の下に光刺激スタート合図システムを設置します。

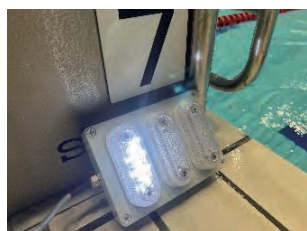
しかし、開催国によって光スタート合図システムの機器が異なります。

国際大会の光スタートランプ (例)

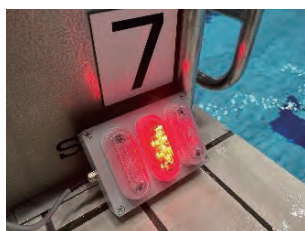


- ①赤→スタート台に乗る
- ②黄→Take your marks
(テイクユアマーク)
- ③緑→スタート

国内大会の光スタートランプ



①白：スタート台に乗る



②赤：Take your marks



③青：スタート

水泳の情報保障

手話言語通訳の配置

例えば、日本デフ水泳協会では、合宿や大会等では手話言語通訳スタッフであることが分かるように、 Poloシャツを色分けしています。

基本は、「紺」ですが、手話言語通訳スタッフは手話表現が読みとりやすいように、「黒」の Poloシャツを着用しています。

また、「手話通訳」の黄色のネームプレームを見やすいところに付けています。

主催大会が手配する手話言語通訳者は、色つきのビブスを着用する場合があります。



手話言語通訳の任務

水泳競技

水泳競技においては、競技中だけでなく練習の場面でも補装具（補聴器や人工内耳）を外して行われることが多いです。

日常生活において補装具でスムーズにコミュニケーションが取れている選手も、補装具を外すことでいつもとは違うコミュニケーションを取ることになります。

そのことを念頭に入れた、より適切な手話言語通訳が求められます。

競技中

競技中は、招集からスタートレーン紹介の所までは、通訳に入ることが許されますが、それ以後は立ち入ることはできません。

前もって、通訳者の立ち位置や伝えるべき情報の範囲などを、主催担当者と確認しておくことが重要です。

前項で紹介した通り、スターターのピストルでは音とともに光が発せられ、それを合図に選手がスタートしますが、「Take your marks (テイクユアマーク)」の音が周囲の状況により聞き取りにくいことがあります。

そんな時は思わず伝えたくりますが、それは通訳のルール違反となり、選手の失格理由になることもあります。

最近、国際大会や全国障がい者スポーツ大会では「光スタート合図システム」が使われるようになり、競技環境がずいぶん改善されてきています。

練習場面

合宿では全国からデフスイマーが集まります。

デフスイマーは普段の練習をそれぞれの学校やスイミングクラブで通っているため、水泳の用語の使い方や手話表現はまちまちで、コミュニケーションがスムーズにいかないことがあります。

そのため、次項で紹介しているように、水泳の用語と手話表現の統一を試みました。

共通の手話表現をすることで、よりスムーズなコミュニケーションが図れ、練習の効果に役立つはずです。

ここでは想定される通訳場面に沿って、目的・内容・注意点について紹介します。

手話言語通訳の場面

競技大会（試合）


※主催者が手話言語通訳者を準備する大会と協会が独自で準備する大会があります。
 どちらの場合も、主催者と十分に打合せし、通訳内容を確認しましょう。特に競技中の通訳者の立ち位置（大会によって異なる）や伝えるべき情報の範囲を確認することは大切です。

通訳場面	目的・通訳内容	注意点
受付	名前と所属などの情報を確認	
<ul style="list-style-type: none"> ・開閉会式 ・表彰式 	<ul style="list-style-type: none"> ・名前と所属などの情報を確認 ・競技注意事項の説明 	同時に複数の聞き取り・読み取り通訳が必要な場合もある。 事前に確認する。
招集	<ul style="list-style-type: none"> ・組やレーンの確認 ・水着の公認マーク(FINA)と帽子や水着の確認 	対象選手のレース時間や組合せ順・レーンを確認しておく。 ※大会により招集・待機時間が異なるので留意する。
<ul style="list-style-type: none"> ・通告員 ・アナウンス 		選手が手を挙げ挨拶するタイミングを示す。 スターターの横で行われることが多い。 ※手話言語通訳はレーン紹介まで。以後原則厳禁。 スタートに関わる通訳をすると選手が失格になることもあるので注意が必要。

手話言語通訳の場面

競技大会（試合）

※主催者が手話言語通訳者を準備する大会と協会が独自で準備する大会があります。
 どちらの場合も、主催者と十分に打合せし、通訳内容を確認しましょう。特に競技中の通訳者の立ち位置（大会によって異なる）や伝えるべき情報の範囲を確認することは大切です。

通訳場面	目的・通訳内容	注意点
トラブル対応	<ul style="list-style-type: none"> ・棄権の届出や失格時の説明など ・ケガや気分が悪くなった時 	<p>近接する通訳が速やかに対応。</p> 
インタビュー （取材）		<p>選手の意図を正確に読み取ることはもちろん、メディアに載ることを考え適切な文言を選択する。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・観客席 ・控室（選手） 	<p>館内放送の通訳など必要な情報を、適宜伝える。</p>	<p>観客席から競技者の撮影が行われていることが多いので、立ち位置に注意する。</p>



手話言語通訳の場面

練習(合宿)

※毎月1回～2回程度全国各地で行われています。

指導者と選手は、ほとんどがきこえない人なので、ここでの通訳は手話言語が分からない一部のきこえる指導者のために行われることになります。

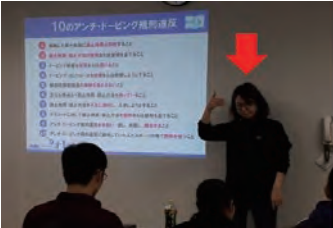
デフスイマーの中には手話言語以外のコミュニケーション方法をとる人もいます。

通訳場面	目的・通訳内容	注意点
<ul style="list-style-type: none"> 挨拶 説明 	<ul style="list-style-type: none"> 施設担当者と関係者へ挨拶 施設担当者から注意事項等 	名前と肩書を聞き漏らさないこと
練習	トレーニングと練習メニューの内容や泳ぎ方の説明とアドバイス	
ミーティング	指導者とスタッフの間の情報共有	
トラブル対応	ケガや気分が悪くなった時	帯同医師の隣で対応する
その他	宿泊所での通訳	食物アレルギーのある選手の要望を通訳することもある

手話言語通訳の場面

会議・研修など

※年間計画に沿って、協会主催の会議や研修が行われています。また、外部の会議や研修に参加する場合もあります。コロナ禍以降、オンライン会議や研修も増えています。

通訳場面	目的・通訳内容	注意点
<ul style="list-style-type: none"> ・会議 ・研修会 	水泳に関する専門語以外は、一般的な会議や研修時通訳と同じ	<ul style="list-style-type: none"> ・関係団体（組織図参照） ・協会スタッフ及び登録選手の名前を把握しておく  <ul style="list-style-type: none"> ・オンライン会議ときにぼかし背景を消す（手話とぼかし背景が被ると読み取れないため）
協会主催時	施設管理者への挨拶	名前と肩書を聞き漏らさないこと
<ul style="list-style-type: none"> ・外部会議 ・外部研修会 	他団体への挨拶	団体名の確認 ※組織図参照

日本デフ水泳協会では、「ろう者のスタッフが、ろう児たちに手話による水泳指導を行い、楽しく水泳をしたり、水泳に対する意欲を高めたりする」ことを目的として、全国各地で年に数回『デフこども水泳教室』を開催しています。

水泳指導のときは、手話言語通訳は必要ではありませんが、会場の施設担当者とのやりとりには手話言語通訳が必要です。また、参加する子どもの保護者には手話言語が堪能ではない人もいますので、手話言語通訳が必要な保護者へ、情報保障・コミュニケーション保障を行います。

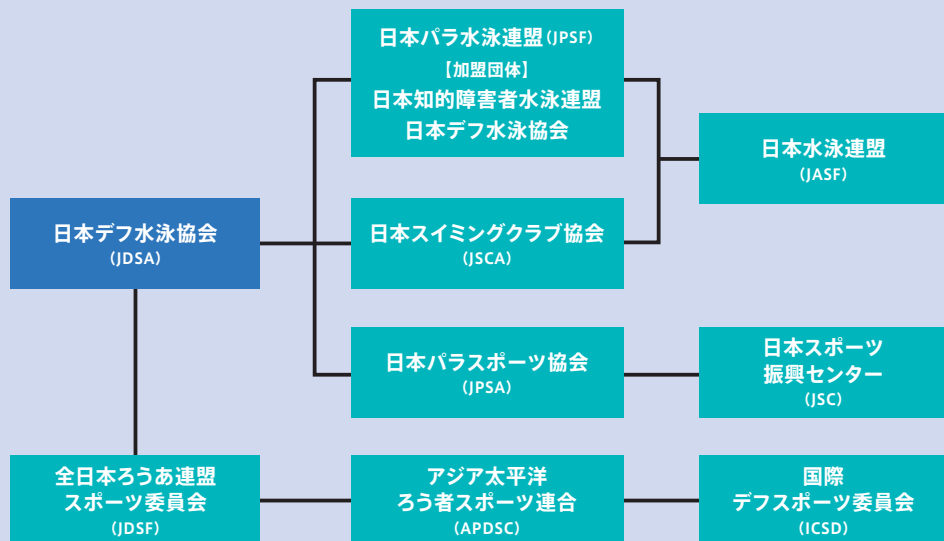
水泳の用語と手話言語表現

<p>ウォーミングアップ (W-UP) 練習やレースを始める前などに 体を温めるために行う</p> 	<p>ターン (Turn)</p> 
<p>ダウン (DOWN) 運動でたまった疲れ(疲労物質)を とるための整理運動</p> 	<p>タッチ (Touch)</p> 
<p>キック (KICK) 足のトレーニング</p> 	<p>ダイブ (Dive) 飛び込み</p> 
<p>プル (PULL) 足に専用のブイなどをはさんで、 腕だけを使って泳ぐ練習</p> 	<p>スカーリング (Sculling) 水をとらえるための動作</p> 
<p>ドリル (DRILL) 泳ぎのフォームを整えるための練習</p> 	<p>プッシュ 水を押し動作を繰り返すこと</p> 
<p>ワンアーム (One Arm) 指定された泳法を片腕で泳ぐこと</p> 	<p>フィスト (Fist) げんこつスイム</p> 
<p>ワンフット (One Foot) 指定された泳法を片あしで泳ぐこと</p> 	<p>サイドキック (Side Kick)</p> 
<p>バタフライ (Fly)</p> 	<p>ハード (Hard) 速く泳ぐ</p> 

水泳の用語と手話言語表現

バック (Bc) 背泳ぎ		イージー (Easy) ゆっくり泳ぐ	
ブレ (Br) 平泳ぎ		スムーズ (Smooth) フォームを意識してゆっくり泳ぐ	
フリー (Fr) 自由形		ディセンディング (Des) 徐々にペースを上げていく	
個人メドレー (IM)		サークル 1本あたりにかける時間	
スタイルワン (SI) 得意な種目		レスト (Rest) 休憩	
チョイス (Choice) 好きな種目を選んで泳ぐ		セット (Set)	
トータル (Total) 泳いだ距離の合計		メイン (Main)	
リレー			

[組織]



一般社団法人日本デフ水泳協会

2002年9月28日に設立し、2016年4月1日に一般社団法人に移行しました。デフ水泳の普及や発展と競技力の向上に関する事業を行っています。

[編集協力]

一般社団法人日本デフ水泳協会

<https://www.deafswim.or.jp/>

デフアスリートをささえる

競技別手話言語通訳ガイド【水泳編】

発行日 2023年3月31日

発行 一般財団法人全日本ろうあ連盟
スポーツ委員会

TEL : 03-3268-8847

FAX : 03-3267-3445

メール: jfd-sc@jfd.or.jp

URL : <https://www.jfd.or.jp/sc/>

このガイドブックは、令和4年度「障害者スポーツ推進プロジェクト（障害者スポーツの指導等に係る競技別の標準化・マニュアル作成等）」（スポーツに精通した手話言語通訳者の育成）の一環で作成しました。

[参考情報]

日本デフ水泳協会 (JDSA)
<https://www.deafswim.or.jp/>

日本パラ水泳連盟 (JPSF)
<https://paraswim.jp/>

日本水泳連盟 (JASF)
<https://swim.jp/>

全日本ろうあ連盟スポーツ委員会 (JDSF)
<https://www.jfd.or.jp/sc/>